第１４回　鳥海ダム環境影響評価技術検討委員会　技術的助言

日時：令和５年２月10日（金）１４：００～１６：００
場所：秋田JAビル　７階　大会議室

1.　令和４年度　鳥海ダム環境モニタリング調査結果に関する技術的助言

①水質

No.	委員名	技術的助言	回答及び対応方針
1	金委員	濁水処理施設は、設置場所及び処理能力、処理方式、使用している凝集剤等の情報を整理していただきたい。 ＰＡＣのようなアルミ系の凝集剤は、残留アルミニウムが処理水として放流されると、生態系へ影響を与える可能性もあるため、できれば大量に使用することは控えていただきたい。 近年は天然凝集剤が開発されている。天然凝集剤を使用すれば、脱水ケーキのリサイクルも可能となるため、導入にあたっては多面的に検討していただきたい。 処理原水の pH は値が高く、アルカリ性が強い。通常の pH の場合と分けて整理していただきたい。	資料のまとめ方、処理水、凝集剤等に関しては、委員のご助言を踏まえながら検討していきたい。

②動物

No.	委員名	技術的助言	回答及び対応方針
1	小笠原 委員長	国内外来種、国外外来種の定義をどこかに明記していただきたい。 また、外来種のハクビシンは、どのような経緯で事業実施区域へ移入してきたかについても記載していただきたい。	承知した。
2	杉山委員	モツゴ等の国内外来魚については、個体数、大きさ、成熟状況、繁殖の可能性についても記録を残していただきたい。 また、国内外来魚が確認された場合は、現場で駆除を行わなくてはならない。	モツゴは、1個体のみ確認されたため、繁殖状況は不明であるため、今後注視していきたい。
3	田中委員	P37 の哺乳類：重要な種の表は、番号に誤りがあるので修正すること。	承知した。

②動物（続き）

No.	委員名	技術的助言	回答及び対応方針
4	田中委員	住民移転が終了し、水田等は人の手が入らなくなり環境が徐々に変化する。そのような環境に依存している生物は、今後、注意して調査を行っていただきたい。	－
5	田中委員	コウベツブゲンゴロウは、秋田県内の過去の調査において本種とされたものが、ニセコウベツブゲンゴロウであると再同定されるケースが散見される。 ニセコウベツブゲンゴロウであった場合、重要な種に該当しないため、今後の調査では、両種の同定に注意が必要である。	－
6	田中委員	シロマダラ、ヒバカリ、タカチホヘビは、発見できるのが珍しいぐらいのヘビである。今回の調査では、シロマダラが未確認となっているが、前回調査において確認できたことの方が、寧ろ希少な記録である。	－
7	髙橋委員	P49 の昆虫類：重要な種の表は、個体数も整理していただきたい。重要な種であっても、個体数の多い、少ないによって意味が異なってくる。	個体数は整理した上で、委員へご報告する。

③植物(法面緑化後のモニタリング調査)

No.	委員名	技術的助言	回答及び対応方針
1	沖田委員	緑化箇所は、ヒメムカシヨモギ等の一年生の草本が侵入しているが、今後、多年生草本や木本類の群落へ遷移していくと考えられる。施工後 1～2 年間で緑化が進んでいるが、植物の遷移の状況は長期的な視点でモニタリングしていただきたい。 また、機会があれば現地調査に同行したい。	法面緑化箇所の遷移については、委員のご意見を伺いながらモニタリングを継続したい。 現地同行は、承知した。
2	金委員	法面緑化は、最終的に目標とする植生タイプの整理が必要と考える。勾配等、法面の条件によって制約があると思う。	－

④景観

No.	委員名	技術的助言	回答及び対応方針
1	横山委員	ダム完成後にダム堤体を見下ろせる視点場はあるか。 そのような視点場が分かっているのであれば、P5 の完成予想図の写真中に視点場の位置を示していただきたい。	表現は工夫する。
2	横山委員	視点場、展望場、展望景観の用語をどのように使い分けているのか、定義を整理していただきたい。	言葉の定義は、分かり易いように解説を入れる。
3	横山委員	将来的にダム堤体から 4 号橋がよく見渡せると考えられるため、4 号橋の設計図を拝見したい。	4 号橋のイメージパースは作成済みであるので、今後、ご覧いただきたい。
4	小笠原 委員長	将来的に 4・5 号橋は、法体の滝へアクセスする際に、多くの人が利用すると考えられる。県民も関心が高いと考えられるため、橋の模式図やパンフレット等を整理し、県民へ周知していただきたい。	－

⑤廃棄物

No.	委員名	技術的助言	回答及び対応方針
1	金委員	脱水ケーキは、良質な土質であれば法面緑化の基盤材として再利用も可能であるため、利用方法についても検討していただきたい。 今後は、このような再利用の促進が重要になってくる。	承知した。

⑥文献調査

No.	委員名	技術的助言	回答及び対応方針
1	髙橋委員	新規確認種は、文献調査の調査対象地域内で記録があるが、事業実施区域内では生息している可能性が低いと考えられる。これらの種の主たる生息環境は、事業実施区域周辺には無いと考えられるため、資料では、このような「現地調査において確認されない理由」をきちんと記載しておいた方が良い。	承知した。今後、詳細を確認させていただく。

2.　今後の環境モニタリング調査計画に関する技術的助言

①令和５年度 モニタリング調査計画

No.	委員名	技術的助言	回答及び対応方針
1	横山委員	今後、新たに整備する展望場においても景観の調査を実施していただきたい。	展望場等から見える景観は、イメージパースを以って、ご相談させていただきたい。
2	小笠原委員長	フォローアップ制度に基づく環境調査については、工事中のモニタリング調査計画を見た際に理解できるように、一体的に整理していただきたい。	フォローアップ制度では、試験湛水前後に５年間程度の環境調査を実施し、その後は５年に１度の頻度で委員会に諮ることとしている。 調査計画の整理方法は工夫する。
3	小笠原委員長	将来的に出現するダム湖では、水質等の物理的な環境も含めて生物の調査を実施し、どのような変化があるのか、確認する必要がある。	承知した。